

よこてしりつとしょかん

図書館員が選んだおすすめ本 100冊

ヨコテ



Yokote City Librarians One Hundred Recommended Books 2021



最後の頁を閉じた 違う私がいた



2021・第75回 読書週間
10/27～11/9

たくさんの本の中からどんな本を読んだらいいか迷ってしまう、
そんな人に、本を選ぶきっかけとなるブックリストを作成しました。
横手市立図書館で働く図書館員 21 人がそれぞれに選んだ一冊です。

これ面白いから読んでみて！私が選んだ本の話をししましょう！
そんな想いを持って図書館でお待ちしています。

あなたの一冊に出会ってほしい。
みなさまに本との新たな出会いが訪れますように。

横手市立図書館

※本の紹介文はニックネームで掲載しています。

※掲載の 100 冊はすべて市内の図書館で借りることができます。
お近くの図書館にないときは予約してください。お取り寄せいたします。

『ことことこーこ』

阿川 佐和子/著 KADOKAWA 2018



913.6ア

フードコーディネーターの肩書を持つ香子。仕事が軌道に乗りかけてきた時に、母琴子の認知症が進行し、介護との両立に悩む。母に苛立ちながらも一緒に笑い合う時間を大切にしていく様子を明るく描く介護小説。(Y.K)

『向日葵のある台所』

秋川 滝美/著 KADOKAWA 2018



913.6ア

娘と穏やかな生活を送る麻有子に、姉から病に倒れた母親を引き取ってほしいと電話が入る。父親似ゆえに母から愛されずに育った麻有子は同居を快諾できず苦悩するが、娘の助けを得て母親との向き合い方を模索していく。(パセリ)

『祭火小夜の後悔』

秋竹 サラダ/著 角川書店 2018



913.6ア

旧校舎で謎の化物に遭遇した坂口。夢で巨大な虫に追い回される浅井。幼いころ死神と取引してしまった系川。不思議な少女・小夜のおかげで難を逃れた3人は、彼女のため魔物退治に協力することになるが…。学園ホラー連作集。(I.K)

『放課後に死者は戻る』

秋吉 理香子/著 双葉社 2014



913.6ア

何者かに崖から突き落とされ死んでしまった高校生の小山。しかし病院で目を覚ますと、なぜか見知らぬ美少年の体に魂が乗り移っていた。正体を隠し自分を殺した犯人を捜す彼を待ち受ける、衝撃の真相とは一。(I.K)

『おもかげ』

浅田 次郎/著 毎日新聞出版 2017

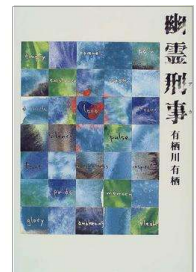


913.6ア

竹脇正一は定年を迎えた送別会の帰り道、地下鉄で倒れる。意識不明の中、竹脇が見た幻は忘れていた過去との再会だった。捨て子としての生い立ちや息子の死など、これまで封印していた人生が走馬灯のように蘇る。(Y.K)

『幽霊刑事』

有栖川 有栖/著 講談社 2000



913.6ア

現職刑事のオレは職場の上司にいきなり射殺され、成仏できず幽霊になってしまった。犯人を逮捕するため捜査を開始するが…。言葉を交わすことができない恋人への想いが切ない、恋愛×推理小説。(モフモフ)

『呼んでみただけ』

安東 みきえ/著 新潮社 2010



913.6ア

ママのお話はいつも不思議で、ちょっと切なくて、温かい。それを聞かせてほしくて、今日もお話をせがむ遊太。いつか終わりが来るからこそ愛おしい、親子で過ごす優しい時間を描いた12編。(I.K)

『タイムカプセル』

生田 紗代/著 河出書房新社 2004



913.6イ

就職活動での連敗をものもしない、従妹の桐ちゃん。一年違いのその姿を見ながらも、迫りくる未来に実感が持てない私。もやもやした気持ちで学生生活を送る私に届いたのは、10年後の自分に宛てた手紙だった。(砂糖さん)

『清く貧しく美しく』

石田 衣良/著 新潮社 2019



913.6イ

非正規雇用で働く立原堅志のもとに、正社員登用の話が持ち上がってくる。そして、昔の恋人と思いがけないところで再会し…。一方、堅志と同棲し、パートで働く保木日菜子にも新たな出会いが訪れようとしていた。(T.T)

『Rのつく月には気をつけよう』

石持 浅海/著 祥伝社 2007



913.6イ

大学時代からの飲み仲間3人、飲み会の習わしは誰かがゲストをひとり連れてくること。毎度ほろ酔いで盛り上がる恋愛話は、ゲストの何気ない一言で一転、謎解きへと変わっていく。表題作を含む連作短編集。(おこめ)

『イニシエーション・ラブ』

乾 くるみ/著 原書房 2004



913.6イ

舞台は80年代の東京。合コンで出会った大学生の僕とマユは順調に恋を進めていくが、僕の就職が決まってから二人の間に不穏な空気が漂い始める。物語が進むにつれて感じる小さな違和感、驚きの結末へと繋がる。(おこめ)

『東慶寺花だより』

井上 ひさし/著 文藝春秋 2010



913.6イ

縁切寺の別名通り、女から離縁することができる駆け込み先の東慶寺。その門前の御用宿・柏屋に居候する信次郎は、医者になるか、戯作者になるか悩みながら、駆け込んでくる女たちの身の上に耳を傾ける日々を過ごしている。(⊕)

『童の神』

今村 翔吾/著 角川春樹事務所 2018



913.6 イ

平安時代、朝廷により土地や命を奪われた者たち。また、朝廷に屈し、蔑まれている者たち。出自と差別に苦しんできた桜暁丸を中心に手を組んだ彼らは、戦うことを決意する。(A2)

『青ノ果テ』

伊予原 新/著 新潮社 2020



913.6 イ

花巻農芸高校に通う辻多は、謎の転校生・深澤の登場によって日常が変化していく。「カムパネルラが死なない世界ってどこにあるのかな」そう言い残し失踪した幼馴染の七夏。宮沢賢治ゆかりの地を舞台とした青春ミステリー。(わいわい)

『梅と水仙』

植松 三十里/著 PHP 研究所 2020



913.6 ウ

父の発案で6歳にしてアメリカに旅立った少女は、持ち前の聡明さで様々な事を学んでいく。一方、父・仙も日本農業の近代化へ心血を注ぐのだが…。仲間との友情、父との葛藤を経て、夢に向かい続けた津田梅子の物語。(ゆこりん)

『帰去来』

大沢 在昌/著 朝日新聞出版 2019

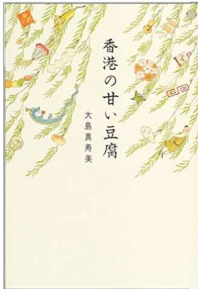


913.6 オ

何者かに首を絞められ気を失った女性警察官・志麻。目覚めると、そこはパラレルワールドだった…。異世界のもうひとりの自分と入れ替わった志麻は、事件捜査を進めるうちに、元の世界とのつながりに気づく。(T.T)

『香港の甘い豆腐』

大島 真寿美/著 理論社 2004



913.6 オ

17歳になる彩美は実の父親を知らない。学校もさぼりがちで、周囲に対して悲観的な考えを持っていた彼女が父親を探しに香港へ行くとところから物語は始まる。本当の自分と向き合う、ひと夏の成長物語。(ずみやん)

『ミステリなふたり』

太田 忠司/著 幻冬舎 2001



913.6 オ

署では冷徹で敏腕刑事の妻は、夫の前では別人のように甘々。イラストレーターで年下の夫は完璧な兼業主夫。毎日疲れた妻のために美味しい料理を作り、その上事件の謎解きもしてくれる。在宅ワーク探偵のミステリー短編集。(モフモフ)

『牛姫の嫁入り』

大山 淳子/著 角川書店 2016



913.6 オ

派遣忍者コウは、美少女と評判の重姫の誘拐を請け負うが、当の姫は部屋から出すこともできないほど丸々と太っていた。コウは彼女のダイエットに協力することになる。美の価値観をアップデートする痛快時代小説。(ふっくん)

『楽園の真下』

荻原 浩/著 文藝春秋 2019



913.6 オ

フリーライターの藤間は志手島で発見された大きなカマキリの取材に向かう。ここではなぜか自殺する者が相次いでいた。島の研究センター所長の秋村とともに調査を進め、島全体が深刻な事態に陥っていることを突き止める。(A2)

『ナオミとカナコ』

奥田 英朗/著 幻冬舎 2014



913.6 オ

ナオミとカナコには、誰にも知られてはいけない秘密があった。恵まれない職場で鬱々とした日々を送っていたナオミ、夫のDVに苦しんでいたカナコ、そんな二人が計画したのは…。女同士の固い友情が引き起こすサスペンス。(ずみやん)

『まち』

小野寺 史宜/著 祥伝社 2019



913.6 オ

火事で両親を亡くした瞬間は祖父とふたりで暮らす。高校を卒業したら村を出て東京に行けという祖父に背中を押され、上京しアルバイトで生活する日々。村や東京で出会った人々に支えられ、新たな目標を見つけて進む成長物語。(菅さん)

『ト伝飄々』

風野 真知雄/著 文藝春秋 2015



913.6 オ

刀を使わず敵に勝つ“無刀の剣豪”塚原ト伝。圧倒的剣術で無敗を誇る一方、人と関わることを嫌い、風来坊のような生活を送る。女がらみの事件には首を突っ込むお人好しが、老いた体と鍋の蓋を引っ提げて旅する物語。(砂糖さん)

『厨师、怪しい鍋と旅をする』

勝山 海百合/著 東京創元社 2018



913.6 カ

厨师見習いの斉鎌は、謎の老人から絶品の出汁が取れるという鍋を借り受けるが、その鍋は空腹になると生物を襲いだす恐ろしい鍋だった…。鍋を返す旅中での不思議な出会いの数々が次第に青年を成長させていく。(かぼちゃ)

『総選挙ホテル』

桂 望実/著 KADOKAWA 2016



913.6カ

営業不振のフィデルホテルを再建すべく、新社長が打ち出した改善案は「従業員総選挙」。リストラあり、配置換えありの斬新な改革に振り回される従業員たちは、次第に仕事にやりがいと喜びを見出していく。

(パセリ)

『狐さんの恋結び』

北 夏輝/著 講談社 2014



913.6キ

いつも着流し姿の風変わりな狐。狐というあだ名も個性的だが、彼の取り巻きも個性的。幼馴染の社会人烏丸、押しかけ女房のような揚羽も加担し、不器用な彼にも幸せが訪れるよう何かと世話を焼く。シリーズ2作目。(砂糖さん)

『螢坂』

北森 鴻/著 講談社 2004



913.6キ

恋人が残した思い出の坂の謎をめぐる表題作『螢坂』ほか、ビアバー『香菜里屋』を舞台にした味わい深い4編の連作短編集。謎の解決にそっと導いてくれるマスターの佇まいと、美味しい料理の数々に魅了される。

(Rin)

『歴史はバーで作られる』

鯨 統一郎/著 双葉社 2017



913.6ク

「義経はニセモノ？」など、珍説を繰り出す素人歴史学者とバーテンダーのコンビに立ち向かうは、学会で活躍する歴史学者と大学生。今夜もバーで、絶品のおつまみとお酒を楽しみながら、熱い歴史バトルが繰り広げられる。(モフモフ)

『限界集落株式会社』

黒野 伸一/著 小学館 2011



913.6ク

都会から抜け出すため祖父の故郷を訪れた多岐川優は、限界集落の再建を目指し集落営農を提案する。衰退を嘆く村人や、都会から逃げ出した就農研修生と共に、農業・経営の困難さを乗り越え、新たな一歩を踏み出す物語。(かぼちゃ)

『罪人が祈るとき』

小林 由香/著 双葉社 2018



913.6コ

凄惨ないじめから死を望む少年と、いじめにより妻子を失った男の交流を描くヒューマンミステリー。社会問題となっている「いじめ」を細かく丁寧に描写する。何が善で何が悪なのか、深く考えさせられる一冊。(まる。)

『みかんとひよどり』

近藤 史恵/著 KADOKAWA 2019



913.6コ

腕はいいが繁盛しないフランス料理店のシェフ潮田は、始めたばかりの猟で遭難する。助けてくれたのは猟師の大高。ジビエ料理を極めたい潮田と世捨て人のように狩猟に生きる大高。ふたりに芽生える大人の友情が清々しい。(菅さん)

『とせい』

今野 敏/著 実業之友社 2004



913.6コ

堅気には丁寧に接し地元の信用を大切にす昔気質のヤクザ阿岐本組。主な仕事は揉め事の調停だが、組長の指示で借金に喘ぐ町工場と倒産寸前の出版社を再建する事に。ナンバー2の日村と若い衆が、裏稼業の流儀で奔走する。(A2)

『忘れ村のイエンと深海の犬』

冴崎 伸/著 新潮社 2013

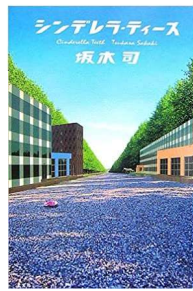


913.6サ

イエンが六本足の子犬のような生き物を拾ってから、彼女の村の周囲には巨大怪物が現れるようになった。村人の憎しみを負いながら、イエンは助けを呼ぶため都へ旅立つ。村の外の世界を夢見る勇敢な少女の冒険譚。(ふっくん)

『シンデレラ・ティース』

坂木 司/著 光文社 2006



913.6サ

大学の夏休みの間、大嫌いな歯医者でアルバイトをすることになった咲子。患者やスタッフと接する中で、周りに流されず今の自分に出来ることは何かを模索し始める。読み始めと終わりでタイトルの意味が違って見えるはず。(おこめ)

『今夜も宇宙の片隅で』

笹生 陽子/著 講談社 2009



913.6サ

とあるマンガを巡って世代も立場も違う人々が緩やかに交錯する連作小説集。「掲示板」「プロフ」など懐かしい言葉が飛び交う作品だが、つながりを求めて広大なネット世界をたどる人間の姿は令和の今と変わらない。(ふっくん)

『凍』

沢木 耕太郎/著 新潮社 2005



913.6サ

世界屈指のクライマー、山野井泰史・妙子夫妻がヒマラヤの高峰・ギャチュンカン北東壁制覇に挑むノンフィクション小説。悪天候に体力を削り取られるなか、生死をかけた綱渡りのクライミングに思わず息を飲む一冊。(T.T)

『国盗り物語 前・後』

司馬 遼太郎/著 新潮社 1987



913.6シ

前半は戦国時代に美濃のmamushiと言われた斎藤道三の生涯、後半はその娘婿となる若き日の織田信長を描いた歴史物語。濃姫を仲立ちに互いを認め合う二人の姿に、著者の歴史観が表れている。司馬の代表作。(⊕)

『やってられない月曜日』

柴田 よしき/著 新潮社 2007



913.6シ

大手出版社にコネ入社した高藤寧々。容姿コンプレックス・パワハラ・恋愛など様々な悩みを抱えながら過ごす、働くアラサー女子のリアルな日常を描く。不満だらけの毎日の中にもちよっぴり希望が持てる一冊。(わいわい)

『失踪者』

下村 敦史/著 講談社 2016



913.6シ

10年前に極寒のクレバスで遭難した親友を探しに来た真山が見つけたのは、明らかに年を重ねた親友の亡骸だった。その死に隠された謎を探るため彼の軌跡を辿る山岳ミステリー。切迫した登山シーンも読みごたえあり。(パセリ)

『鳴くかウグイス』

不知火 京介/著 光文社 2010

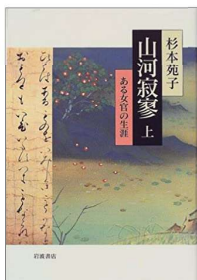


913.6シ

小林家は銀行で契約社員として働く妻、再就職するも収入半減の夫、美人だが努力嫌いの長女、勉強熱心な長男、無邪気な小3の次女の5人家族。長女は公立高校絶望、次男は私立中学受験切望…W受験に奮闘する家族の絆を描く。(ノラネコ)

『山河寂寥 (上・下)』

杉本 苑子/著 岩崎書店 1999



913.6ス

藤原北家に生まれた淑子は両親の死後、叔父良房、異母兄基経のすすめで宮廷の女官となる。帝を巻き込む権力闘争の渦中にありながら次第に地歩を固めていく彼女は、やがて自身の判断で皇位を揺るがすほどの権力者になる。(⊕)

『それでも、警官は微笑う』

日明 恩/著 講談社 2002



913.6タ

裏社会の人間から「キチク」と呼ばれる強面で無骨な実直型刑事と、家柄の良さを利用しつつも立場に悩む、頭も口も回る年下の上司。拳銃密造の巨悪と内外の敵に立ち向かう、真逆な二人のタッグに心が躍る警察小説。(Rin)

『獄の棘』

大門 剛明/著 KADOKAWA 2014



弘前刑務所で働く武島良太は、祖父から続く親子三代の刑務官。統括の名久井は刑務所内で蔓延する不正を正そうと、良太に探りを入れるよう依頼する。刑務所という閉鎖的な空間で起こる人間の心の葛藤を描いた連作短編集。(ノラネコ)

913.6タ

『エッグマン』

辻 仁成/著 朝日新聞出版 2017



口下手で奥手な元料理人サトジ。想いを寄せるシングルマザーとの距離がなかなか縮まらない中、彼女の一人娘のため手料理を振る舞うことになり…。不器用な男が卵料理で周りの人々を笑顔にしていく料理小説。(I.K)

913.6ツ

『教場』

長岡 弘樹/著 小学館 2013



警察学校に入学した宮坂は備品がなくなっていることに気づく。報告を受けた教官の風間は、生徒をグラウンドに集合させる。人間の本質を見抜こうとする風間と、警察官になることを夢見る若者たちの物語。(ずみやん)

913.6ナ

『魔女と金魚』

中島 桃子/著 幻冬舎 2010



魔女と魔法が存在する世界で、占いをしている魔女の繭子。なぜか自分の仕事や恋愛はうまくいかないが、店に来た客との出会いを通じて、自分を見つめ直すきっかけをつかんでいく。

(砂糖さん)

913.6ナ

『三日間の相棒』

永瀬 隼介/著 中央公論社 2013



龍二は埼玉県警の警務課会計係。6年前に刑事として関わった殺人事件は未解決のままだった。ある晩その事件を追う謎の探偵と出会う。口達者で強引な彼から刺激を受け、事件を再調査するために龍二は3日間の休暇を取る。(A2)

913.6ナ

『戦場のニーナ』

なかにし 礼/著 講談社 2007



自分の生まれも分からず孤児院と里親を往復し、激動の戦後ロシアを生き抜いた女性ニーナ。中国人として扱われたニーナは自分のルーツを探し求める。日本人残留孤児の実話を基にした物語。(Y.K)

913.6ナ

『二階の王』

名梁 和泉/著 角川書店 2015



引きこもりの兄のことで頭を悩ませるフリーターの明子。五感を使って異形を見分ける特殊能力者たち。2つのドラマが交わった時、1つの家庭問題から世界を守る戦いへと物語のスケールが広がっていく。(I.K)

913.6ナ

『夢の迷い路』

西澤 保彦/著 光文社 2019



ジャンク映画マニアの柚木崎溪は、読書家の美少女、日柳永美に一目ぼれをする。好奇心旺盛な彼女の気を惹くべく、とある相談を持ち掛け…。過去の殺人事件や、亡き祖父との思い出に潜む謎の真相を紐解いていく短編集。(かぼちゃ)

913.6ニ

『レジまでの推理』

似鳥 鶏/著 光文社 2016



いつも本のポップを書いている店長とアルバイトなのに店長並みの仕事をこなす青井を軸にした本屋が舞台のミステリー。軽快な文体とユニークな脚注が楽しい物語には、昨今の本屋や出版業界が抱える厳しい実態も描かれている。(おこめ)

913.6ニ

『ヒトリコ』

額賀 濤/著 小学館 2015



金魚殺しの濡れ衣を着せられ、いじめにあった主人公・日都子(ひとこ)。一人でも凛として生きる姿は周囲にさまざまな感情を抱かせる。他者との関わりの中で葛藤し、成長していく10代の姿を描いた青春の物語。(S)

913.6ヌ

『風の棲む町』

ねじめ 正一/著 日本放送出版協会 1996



昭和51年、酒田でぼんやりと高校生活を過ごす拓也だったが、父の書店が大火で焼失してしまう。復興に奔走する父との衝突、友人との葛藤を通して、頼りなかった主人公が成長を遂げる姿がたくましい青春小説。(ゆこりん)

913.6ネ

『生首に聞いてみる』

法月 綸太郎/著 角川書店 2004



前衛彫刻家・川島伊作が、首のない石膏像を残して急逝した。首は意図的に切られたのか？その謎の調査に乗り出した探偵の法月綸太郎だったが、調査中に伊作の娘が首を切られて殺される。事件の裏に潜む罪深い過去とは？(ゆこりん)

913.6ノ

『みんなの秘密』

畑野 智美/著 新潮社 2015



913.6八

あいつはいじめにあって
いる。あの子は万引きの
常習犯で、あの人には年
上の彼氏がいる…みんな
がそれぞれに抱えた秘
密。クラスメイトや大人た
ちを巻き込んだひと夏の
出来事を、中学2年生の
少女の視点を通して描
く。(砂糖さん)

『正妻 (上・下)』

林 真理子/著 講談社 2013



913.6八

幕末、京都で暮らす公
家の姫・美賀子が嫁い
だ先は、徳川將軍家。変
わり者と評される江戸
幕府最後の將軍・徳川
慶喜の元で、波乱万丈
の人生を送る。激動の
時代の様相や男と女の
恋模様も交えた情緒豊
かな作品。(T)

『ヴルスト! ヴルスト! ヴルスト!』

原 宏一/著 光文社 2013



913.6八

取り壊し寸前のボロアパ
ートで高認試験の勉強
に励む勇者。階下にはヴ
ルスト(ソーセージ)作り
をする還暦目の髭太郎
。次第に彼のペースに
巻き込まれてしまった勇
者は、ヴルスト作りを手
伝うことに。男たちの奮
闘物語。(わいわい)

『風神雷神 (上・下)』

原田 マハ/著 PHP 研究所 2019



913.6八

同一タイトル作品は多々
あれど、同一人物を扱い
ながらこれほど毛色の違
う小説も珍しい。俵屋宗
達は若い頃、天正少年
遣欧使節とともに海をわ
たり、ルネサンス期の巨
匠たちの美術品をその
目で直に見ることにな
る。(⊕)

『カエルの楽園』

百田 尚樹/著 新潮社 2016

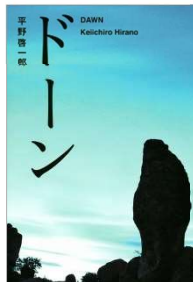


913.6七

カエルの国「ナパーヂ
ュ」は戒律により平和を
保っていた。しかし敵の
侵攻により、その世界が
脅かされることに。戒律
は正しいと思い込んだ結
果が国にもたらすもの
は。平和主義の是非を寓
話に見立て問題提起し
た一冊。(まる。)

『ドーン』

平野 啓一郎/著 講談社 2009



913.6七

宇宙飛行士の明日人は
6人のクルーと共に有人
火星探査に参加する。2
年間にも渡る閉鎖的な
空間の中で衝撃的な出
来事が起こる。それはア
メリカ社会をも巻き込む
事件に繋がっていく一。
近未来SF小説。
(わいわい)

『四月、不浄の塔の下で二人は』

平山 瑞穂/著 中央公論新社 2013



913.6七

新興宗教団体で教祖の娘として育った静。行方不明の兄を探すため、17年間出たことのない聖地を後にする。全てが初めての経験に戸惑いながらも少しずつ静の心は変化していく。成長した静の最後の決断も感慨深い。(ノラネコ)

『きのうのオレンジ』

藤岡 陽子/著 集英社 2020



913.6フ

主人公は笹本遼駕、33歳。突然のがん宣告に衝撃を受ける。闘病生活を支えたのは彼を慕う人々と、オレンジ色の登山靴を履いたあの日の記憶だった。生きることへの強い思いと家族愛が胸に迫る、切なくも温かい命の物語。(S)

『ふたりの文化祭』

藤野 恵美/著 角川書店 2016



913.6フ

人気者の潤と地味なあや。もと幼馴染のふたりは文化祭の準備をきっかけに再び関わることになる。互いの存在に少し苛立ちながら自身を見つめ直してゆく、正反対のふたり、それぞれの成長物語。(ふっくん)

『茶筌の旗』

藤原 緋沙子/著 新潮社 2017



913.6フ

宇治の御茶師・朝比奈家を継ぐ主人公、綸。時は豊臣・徳川の決戦。御茶師は大家とも関係が深く、どの陣営に付くか決断を迫られる。乱世を背景に、茶を育て茶園を守る努力を重ねた女御茶師の成長を描く歴史小説。(Y.K)

『すみれ屋敷の罪人』

降田 天/著 宝島社 2018



913.6フ

戦前の名家、旧紫峰家の敷地で2体の白骨死体が見つかる。当時の当主と三姉妹の華麗な生活、戦争から帰還した当主の変貌、その後の火事での物騒な事件など…警察を名乗る西ノ森が使用人達の証言から真実を解くミステリー。(ノラネコ)

『黒いサカナ』

保坂 祐希/著 ポプラ社 2020



913.6ホ

食をこよなく愛する大手スーパー勤務の里奈と出版社記者の春樹が高級食材ウナギの流通の裏側に迫っていく。深夜に行われる漁の秘密や恐ろしい事実とは…。1990年と2020年の二つの時代が交錯しながら描かれる企業小説。(ことら)

『ある晴れた日に、墓じまい』

堀川 アサコ/著 KADOKAWA 2020



バツイチで44歳の正美は乳がんを患ったことで墓じまいを決意するが、ろくでなしの兄や父の急死、自ら営む古書店のことなど問題が山積み。それでも前向きに奮闘する主人公の姿が印象的な家族小説。(こたら)

913.6 ホ

『壺中の回廊』

松井 今朝子/著 集英社 2013



歌舞伎座の人気役者が舞台上で殺された! 捜査依頼を受けた狂言作者の末裔・桜木治郎だが、容疑者である役者達の方が一枚も二枚も上手で捜査は難航する。歌舞伎座に渦巻く愛憎が生んだ悲劇的な事件にゾクリとする一冊。(ゆこりん)

913.6 マ

『ミッキーマウスの憂鬱』

松岡 圭祐/著 新潮社 2005



ディズニーランドのバイトに採用され、夢と理想に燃えるお気楽な青年は、正社員との格差の現実には落ち込む。しかし、ゲストの夢を壊さない裏方の仕事に誇りを見出し、周囲を巻き込み成長していく。テーマパークの舞台裏も楽しめる作品。(Rin)

913.6 マ

『格闘する者に○』

三浦 しをん/著 草思社 2000



就職活動中の大学4年生可南子の奮闘の日々を、個性的な友人や恋人、家族とのやり取りなども交えて多面的に描く。辛く厳しい状況に追いやられても突破していく主人公の姿を、終始ユーモラスに描く青春小説。(T)

913.6 ミ

『母の遺産』

水村 美苗/著 中央公論新社 2012



我儘な実母の介護に追われる美津紀。先の見えない日々の中、単身赴任中の夫の不貞に気付いてしまう。全てを終えた時残るものは何なのか。著者の実体験を交え、肉親の介護の実情と揺れ動く感情に深く踏み込んだ作品。(おこめ)

913.6 ミ

『花の歲月』

宮城谷 昌光/著 講談社 1992



貧家の娘・竇猗房(とういぼう)の顔に不思議な色を見た郷の長老は、彼女を宮廷入りの選抜へと送り出す。一方で猗房の幼い弟は人攫いにあってしまい一。中国の歴史書『史記』を元に描かれた姉弟の数奇な運命の物語。(S)

913.6 ミ

『女のいない男たち』

村上 春樹/著 文芸春秋 2014



913.6 △

夜中にかかってきた電話は遙か昔に別れた恋人の自死の知らせだった。電話の主は彼女の夫。遠い過去へ思いを馳せる僕が辿り着いた答えは…。音楽でいうコンセプトアルバムのような作品だと著者が語る表題作を含む6編の短編集。(菅さん)

『地球星人』

村田 沙耶香/著 新潮社 2018

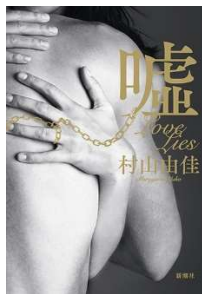


913.6 △

ポハピピンポポピア星人の奈月は、常識を強制する人々を「地球星人」と蔑み、社会に馴染めずにいた。ある日、地球星人から逃れるために田舎町へ行くと、そこには小学生のときに結婚の約束をした由宇が暮らしていた。(T.T)

『嘘』

村山 由香/著 新潮社 2017



913.6 △

中学の同級生である秀俊、美月、陽菜乃、亮介。14歳の時に起きた事件を引き金に、4人は秘密を共有し合い、それぞれの心に嘘と罪を抱えながら生きていくこととなる。20年に渡る愛と絶望の日々を描いた壮大な物語。(T)

『かもめ食堂』

群 よう子/著 幻冬舎 2006



913.6 △

穏やかなヘルシンキの街角にある「かもめ食堂」には、風変わりな青年や訳ありなお客様が訪れる。店主のサチエ、自分を見つめ直しに来たミドリとマサコ。異国の地で、人との出会いを大切にしたい一冊。(ずみやん)

『ヒカルの卵』

森沢 明夫/著 徳間書店 2013



913.6 モ

お人好みなムーさんは父親から継いだ養鶏場を営み、活気のない限界集落で全国初の卵がけごはん専門店を開こうと奮闘する。この壮大な賭けは成功するのか。人と人とのつながりや想いがじんわり心にしみる物語。(こたら)

『風神雷神 (上・下)』

柳 広司/著 講談社 2017

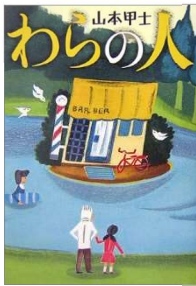


913.6 ヤ

琳派の祖とされる謎多き絵師俵屋宗達の生涯。扇屋『俵屋』の養子となり、商いよりも扇絵を描くことが何よりも好きな伊年が、出雲阿国や本阿弥光悦等との交流を通じて、天皇までも魅了した天才絵師宗達となるまでを描く。(⊕)

『わらの人』

山本 甲士/著 文藝春秋 2006



不思議な理容店で思いもよらぬ髪型にされてしまった主人公は、性格までもが豹変して人生を好転させていく。人はきっかけひとつで前向きになり、潜在能力を発揮できるというメッセージが込められた6つの短編集。(パセリ)

913.6ヤ

『自転しながら公転する』

山本 文緒/著 新潮社 2020



大好きなブランドのショップ店員として働いていた都は、親の介護を理由に実家に戻り、冴えないショッピングモールで働く。仕事も恋愛も家族も思い通りにはならない歯がゆさを乗り越え、悔いなく生きようとする都にエールをもらえる。(菅さん)

913.6ヤ

『流転の魔女』

楊 逸/著 文藝春秋 2013



儉約に努める留学生の林杏と、彼女がおせんとな付けた紙幣それぞれのお金のエピソード。林杏の周囲では金銭トラブルが続き、次々と居場所が変わるおせんは様々な扱いを受けながら欲深い人間に遭遇し騒動に巻き込まれる。(A2)

913.6ヤ

『ヴァニティ』

唯川 恵/著 光文社 2011



仕事や結婚、女同士の友情などの悩みを抱えながらもたくましく生きる女性たちの姿を描いた中短編集。自分が選んだ道に対して感じてしまう後悔や不安など、女性の感情の描写がリアルに感じられる作品。(T)

913.6ユ

『横道世之介』

吉田 修一/著 毎日新聞社 2009



大学進学のために上京した横道世之介の1年間を描いた物語。お人好しで明るく素直な彼は誰からも好かれ、友人や彼女に囲まれた日常はささやかだが温かい。どんな出来事にも大丈夫だと行動する無謀な勇敢さが、切ないラストへと繋がる。(菅さん)

913.6ヨ

『熊嵐』

吉村 昭/著 新潮社 2013



大正4年に起こった日本最大の獣害事件をモデルにした小説。鮮血、肉片、噛み砕かれた骨…。開拓村を蹂躪し続ける巨大熊に、人々は為す術がない。誰も太刀打ちできない巨大熊の前に立ち塞がったのは、一人の猟師だった。(T.T)

913.6ヨ

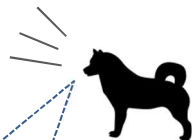
『一夢庵風流記』

隆 慶一郎/著 新潮社 2007



隆慶一郎 学識深く風流人、戦の腕は天下一品、権力者におもねることなく戦国末期を自由に生き抜いた、男が惚れる男・前田慶次郎。わずか5年の作家活動で急逝した著者が、その魅力を余すところなく描いた痛快歴史小説。(モフモフ)

913.6リ



ここからはエッセイやノンフィクションのジャンルから選んだおすすめ本です

『断片的なものの社会学』

岸 政彦/著 朝日出版社 2015

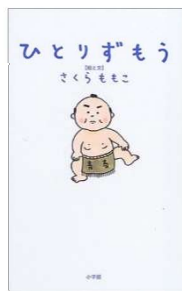


社会学者の筆者が取材の中で出会った人々や、日常生活の中で遭遇した分析できない感情、出来事を淡々と語ったエッセイ。日々直面し、忘れてしまうような断片的な日常の物語に目を向け、綴られた一冊。(かぼちゃ)

914.6キ

『ひとりずもう』

さくら ももこ/著 小学館 2005



ちびまる子ちゃんの作者さくらももこが青春をテーマに綴ったエッセイ。猥談で盛り上がった女子高時代、片思いの思い出、漫画家を目指し投稿する日々。一見地味で他愛のない思い出も独特の感性でくすりとさせられる。(ゆこりん)

914.6サ

『あのころのデパート』

長野 まゆみ/著 新潮社 2012



店内アナウンスの秘密やおでむかえルールなど若い頃デパート店員だった著者ならではの裏話が満載。屋上遊園地やお子様食堂など、おでかけの楽しかった記憶がよみがえる、ちょっぴり辛口だけど懐かしいデパートエッセイ。(こたら)

914.6ナ

『永遠のおでかけ』

益田 ミリ/著 毎日新聞出版 2018

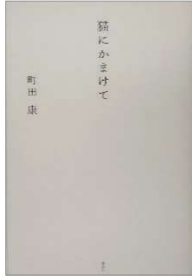


父の病氣と死、誰もが経験する大切な人との別れ。日々の生活にちらっと顔をのぞかせる故人との想い出。でも悲しいだけではなく、「私」の背中を押してくれる。切なさや温かさがつまった優しいエッセイ。(こたら)

914.6マ

『猫にかまけて』

町田 康/著 講談社 2004



914.6マ

彼らは奇怪なふるまいで翻弄し、完璧なロジックで論破する。これは、家庭内危険生物「猫」への警鐘を鳴らす一冊…ではなく「猫あるある」を筆者独特の言語センスで描いたもの。猫たちへの愛情あふれるエッセイ。(ふっくん)

『三谷幸喜のありふれた生活』

三谷 幸喜/著 朝日新聞社 2002



914.6ミ

人気脚本家なのに人見知り、プライドを見え隠れさせるも評判を気にして動揺する、とつても繊細な著者。彼を取り巻く環境も現在ではだいぶ変わったものの、そのありふれない生活ぶりが変わらず笑いを呼ぶエッセイ。息の長いシリーズ1作目。(Rin)

『母ではなくて、親になる』

山崎 ナオコ-ラ/著 河出書房新社 2017



914.6ヤ

妊娠、出産、育児と新たな経験を重ねていった著者の思い出と記録が綴られたエッセイ。子育てにまつわるエピソードを中心に、自身が社会に感じたこと、男女について思うことなども克明に語られている。(T)

『かんもくの声』

入江 紗代/著 学苑社 2020



916イ

自分の意思に反して学校や職場など特定の場面で話せなくなる「場面緘黙(かんもく)症」。その経験者である著者の苦難の半生が綴られた手記。日常生活での問題や生きづらさなど、当事者のリアルな声が胸に突き刺さる。(S)

『鏡は横にひび割れて』

アガサ・クリスティー/著 橋本 福夫/訳 早川書房 2004



933.7ク

名探偵ミス・マープルの住む村で開かれた女優のパーティで、招待客が毒殺される。なぜ殺されたのか?事件の直前に女優が浮かべた奇妙な表情は何だったのか?そして明かされる、あまりにも意外な事件の動機とは。(モフモフ)

ここからは外国の作家による作品から選んだおすすめ本です



『ドラゴンの塔 (上・下)』

ナオミ・ノヴィク/著 那波 かおり/訳
静新社 2016



933.7ノ

何者でもない平凡な村娘が「10年に一度」のその日、魔法使いの領主〈ドラゴン〉に選ばれたことから世界の運命は大きく変わっていく。穢れを放ち、全てを狂わせる〈森〉と人との壮絶な戦いを描いた大人のファンタジー。(S)

『小さな家のローラ』

ローラ・インガルス・ワイルダー/作
安野 光雅/絵・監訳 朝日出版社 2017



933.7ワ

70年代に大ヒットしたドラマの原作『大きな森の小さな家』を安野光雅が翻訳・挿絵で書き下ろした作品。物語の厳しくも美しい自然とおおらかな家族愛を、やさしい文章と共に一つ一つの絵でていねいに再現した珠玉の一冊。(Rin)

『スモールボーン氏は不在』

マイケル・ギルバート/著 浅羽 英子/訳
小学館 2003



933ギ

書類金庫内から顧客の遺体が見つかった。犯人はいつ、どうやって人目に付く事務所内の金庫に遺体を詰め込むことができたのか。新人弁護士が、不眠症に悩まされることで得た天才的頭脳で事件に挑む本格ミステリー。(まる。)

『クライム・マシン』

ジャック・リッチー/著 好野 理恵ほか/訳
晶文社 2005

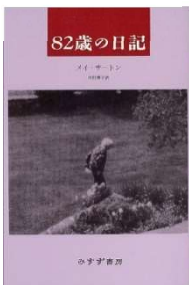


933リ

「あなたの犯行現場をタイムマシンで目撃した」殺し屋の前に現れた男は言った。男が示す証拠からタイムマシンを本物と信じた殺し屋は、25万ドルでそれを譲り受ける約束をしたが…。軽妙な文章でまさか!のラストに導く。(まる。)

『82歳の日記』

メイ・サートン/著 中村 輝子/訳
みすず書房 2004



935サ

思い出される遠い記憶、愛猫ピエロの存在、支えてくれる友人たちとのかけがえのない日々。老いることに苛立ち不安になりながらも、ユーモラスにありのままの日常を綴る。作家メイ・サートンが最後に残した日記。(わいわい)

『カモメに飛ぶことを教えた猫』

ルイス・セプルバダ/著 河野 万里子/訳
白水社 1998



963セ

瀕死のカモメのケンガーは黒猫のゾルバに、これから産み落とす卵を託すと共に3つの約束を交わし息絶える。ゾルバは約束を果たすため、仲間や人間の知恵を借り奮闘する。種の違いを超えて分かち合う友情と勇気の物語。(ノラネコ)

ヨコワン 2021
図書館員が選んだおすすめ本 100 冊

2021 年 10 月 19 日

横手市立図書館

【問合せ】

図書館課(雄物川図書館) 電話 0182-22-2300
〒013-0205 横手市雄物川町今宿字鳴田 133